

平成 27 年 第 2 回政策討論会要点記録
(第一分科会：文教民生グループ)

開催日時：平成 27 年 8 月 18 日(火)午前 10 時より

参加議員：井上源次座長・西田武史副座長・井舎英生・澤田和代・
南加代子・松本妙子・中井良介・井上孝三郎

【今回の概要】

第一分科会では、前回の討論会において「小中一貫教育について」のテーマとなった。今後の討論会の進め方として、「政策討論会分科会の進め方」(案)に則って進めていく。今回は、小中一貫教育についての共通認識として岸和田の学力の低下の問題を含めた中で広い議論を行う。

今回の資料提供者は、西田副座長と井舎議員。

【議員意見】

- ・全国的に 9 割も成果が出ているのでいい事である。
- ・市内各地で地域性が違うので、その点を考えるべき。
- ・学力と体力を向上するというのが達成できるのではないかと期待。
- ・学力向上と言う事もあるが、学校の統廃合という事も目的にあげられていないか。
- ・9 年間と言う事で人間関係が固定化する中でいじめとかそういう問題が発生した時になかなか解決しにくいのではないか。
- ・カリキュラムの問題で 9 年間でこのカリキュラムをしようと言う事になると前倒しで詰め込み教育になるのではないかと危惧している。
- ・行政による教育内容への不当な支配の危険というのも考えられるのではないか。
- ・小中一貫校で学力向上の為にこれをしようと言う事には異議を唱えたい。
- ・このテーマを今回あげたと言う事は時期に適している。
- ・議会としてもこういう問題をじっくり時間をかけて議論していく事は意義ある事だ。
- ・実態を見たり、調査したり、そういうのも受け止めながら勉強して行きたい。
- ・あるいは 6・3 制が中一ギャップを生む制度的な問題であるなら話題になったはずだし、その辺の事をもう少し見極めたい。
- ・6・3 制が出来て終戦後でも 70 年経ち、世の中も変わり、子どもたちも少子化で生徒数も減ってきている、時代も変わってきてここでこういう課題を取り上げて議論するのは良い。

- ・ 来年4月から法改正される中、各地域において独自性を持った教育が必要ではないかと言う事が全国的に広がってきているようだ。
- ・ 今現在岸和田市においては、統廃合の事についても地域的に難しい事もある。
- ・ 我々の一貫教育についての中一ギャップ、現実にはギャップと感じ取られている人とそうでない人の差が顕著にあるのではないかな。
- ・ 来年から正式に制度化もされ、世間で中一ギャップであるとかいじめ等の問題、特に岸和田は全国的に見ても学力が非常に低いと言う状況の中で、小中一貫教育と言うやり方を使って改善していきたい。
- ・ 教育の基本は、子どもの個性を尊重して自分らしい人生を開いて行けるのが教育の基本。岸和田市は地域性も団結のある所も大変いいところだが、中々外に向かって出ていく事が難しい地域でもある。大きく外に向かって世界に向かってたくさんの人と関わっていけるような教育を入れていけると言うのが小中一貫ではないかな。
- ・ 岸和田から英語でもなんでもコミュニケーションが取れる人材ができるような小中一貫教育を目指していきたい。
- ・ 現場を全然知らないので、これを機会に視察するなり、また、当事者である先生方から意見を聞いたりしていかないと議論が上滑りになる。
- ・ 母子家庭が増えている様に思う。この世の中が少子化だけじゃなくて社会構造が親と子どもの関係、地域と子どもの関係が昔とは変わっている。
- ・ 今後、議論が活発になるにつれて現場も見学させてもらったり、色んな先生の率直な意見を聞いたりする事も必要ではないかな。
- ・ 小中一貫と言うのは必ず学校の廃止が伴って来る。どこかの学校を一つを選ぶと言う事になると、非常に生々しい話になってくる。我々がこういう場でそう言う議論をすべきかどうか。
- ・ 小中一貫教育が、今の学校教育の問題を解決し改善になるのかどうか見ていきたい。
- ・ 同時に小中一貫校の普及と言うのは多分に人口減少、小規模校の統廃合と言う事と一体に進められている。小規模校を無くしていくと言う様な動機の中でこの小中一貫が進められているのが確か。
- ・ 教師自身の一面が大事。教師を増やしてほしい、教師自身の心通えるような政策に結び付けたい。
- ・ 無責任に議会の中で出来る出来ると言う事ではなく、詳細な所までしっかりと見つめたうえで議論していったらどうか。
- ・ 理事者を呼んで説明を聞くこと
- ・ 岸和田市内各地域によって地域性も有るし学校によって取り組み方も違う。それぞれ皆さんの地域の学校に個人的に行かれても参考になるのではないかな。

- いきなり一貫にまで行かなくても近隣でやっている連携みたいな形ですのも一つの手。
- 色んな意見を聞く現場を見ると言うのは僕らが冷静に判断するうえでは重要な事。
- 岸和田が小中一貫をやっていく上で岸和田らしい教育改革をぜひ2年かけても目標としてやりたい。

【まとめ】

- 次回は9月17日午後3時から
- 次回、岸和田の現状把握と課題の抽出。
- 学校現場の視察は代表者会議において確認する。